

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2392800104 | | |
| 法人名 | 琴葉株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム琴葉向陽 1F | | |
| 所在地 | 愛知県碧南市向陽町1-54 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年2月7日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし入居者1人1人の生活歴を踏まえながら「楽しい」と思ってもらえる場所をめざす。自由な行動の抑制をしないこと、社会との隔絶の無い日々、季節感のある日々をすごしていただく。施設に入ったから何もできないのではなく、施設に入ったから席が増えたといわれるようにしていく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2392800104-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設4年を迎えた事業所の近隣には、小・中・高校、コンビニや神社、公園などがあり、敷地内や隣接する保育園の子どもたちの笑顔や笑い声に癒される環境にある。2階建の事業所は開放的で明るく、最新の設備が整えられ住み心地よく、安心して暮らせる場となっている。会社の理念、『「スローライフ」ゆったりとした時間、空間の提供』を基に、グループホームの想いとして「あなたに会えてよかった」を掲げ、入居者と向き合い思いをくみ取りゆったりとしたケアに心がけている。今年もコロナ禍により、地域の行事や清掃活動などの参加は踏み止まっている。昨年度の「国際ランチ」から、今年は「都道府県ランチ」と称して月1回、各県のご当地料理や味を楽しんでいる。庭先で芋煮会や餅つき大会、ユニット合同の昼食会やキッチンカーを利用して野外で焼きそばやたこ焼き、ピザなど楽しめている。室内では入居者希望のちらし寿司やハンバーグなど手作りの良さを残しながら多彩な内容で調理レクを楽しんでいる。ドライブを兼ねて桜や花しょうぶ、紫陽花など季節の花見や温室の花々の鑑賞、野菜の収穫体験など地域情報や資源を活用し感染状況を確認しながら外出支援に努め、入居者の楽しみや喜びに配慮した支援にも心掛けている。年賀状や習字、雑巾縫い、家事仕事など今までしてきたことを大事にし、今の生活の中でできるような支援にも努めている。日差しの降り注ぐ明るいリビングルームのゆったりとしたソファやイスに腰掛て新聞を読んだりテレビを観たり談笑などをしてのんびり過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あい福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月13日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家族的な生活環境をめざし、入居者一人一人によりそうようにしている。近隣に住まいするスタッフが増えたため入居者様との共通の話題でコミュニケーションが取れるようになった | 会社の理念を玄関に掲示し、パンフレットにも掲載している。毎朝の申し送りや職員会議で理念の「スローライフ」の持つ意味を理解し、「あなたに会えてよかった」をグループホームの想いとして職員と共有しつつ、日々の行動の指針として支援に活かすように努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 同一敷地内にある保育所の乳児が飼育している亀や金魚を見に来たり、窓越しに手を振りあったりして交流している。コロナ禍で外出は控えるようにしていたが、感染対策をとって、菖蒲やアジサイの花見へもでかけた。ボランティアの受け入れは中止してきた | 町内会に加入し、回覧板により地域の情報を得ている。今年度もコロナ禍により地域の行事や清掃活動の参加は自粛している。地域の商店や飲食店は感染状況を確認しながら利用している。保育園児との交流は見合わせているが、玄関先で飼育している亀や金魚を観に来たり挨拶代わりに窓越しで手を振るなどの交流をしている。初詣の再開や日々の散歩で地域の方と挨拶を交わしたり、生け花のボランティアとは状況を確認し交流をしている。地域情報を収集しキッチンカーを利用して野外で焼きそばやたこ焼き、ピザなど楽しめるようにしたり、地域にも声掛けをして楽しむなど地域との繋がりを保ちながら暮らす努力をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍で面会は禁止し外部との接触は極端にへらしていた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で外部の方を呼ぶことがためられたが書面での開催は1回のみだった。管理者みずからがコロナになった際は施設内でスタッフのみで開催した | 入居者、家族、近隣代表、市議員、市職員が出席して2か月に1回開催している。今年度はコロナの状況を確認し感染対策をしながら事業所の玄関ホールで開催している。事業所の運営や活動状況の報告、ヒヤリハットや事故報告と今後の取り組みなどを議題として取り上げ、参加者からの意見や要望については議事録に丁寧に記録し、運営やサービスの向上に活かしている。議事録は家族や関係機関に配布している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2か月に1度の運営推進会議に参加いただき意見をもらっている。運営上の疑問や不明点を問い合わせたり密な関係を作っている。市町村の主催する研修や後援会へ参加し顔の見える関係を築いている | 運営推進会議に市職員と社協が交代で参加している。コロナ感染対策で良好な評価を受けたり、情報の交換をしている。コロナ禍により電話やメール、ファックスなどを利用して事業所の運営やサービスなどの相談や指導、助言などを受け協力関係を密にしている。また、「介護のお仕事」説明会は、感染予防のため参加を見送った。参加の可能な研修には積極的に参加するようにしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の事例はないが行動抑制にもなる施錠を玄関や居室に行わないように努力している | 3か月に1回「身体拘束適正化委員会」の開催と合わせ研修を行っている。外部講師の資料を基にリーダーを中心に研修し、身体拘束の内容について理解を深め、レポート提出により習熟度を確認している。靴などに鈴をつける場合は、家族に同意を得ている。スピーチロックに配慮し、入居者は職員の見守りの中、開放的で自由な暮らしをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 利用者に対しての身体虐待は当然行われていないが「言葉」による虐待のないように努めている。「待って！」「～しないで」という禁止用語を使わないようにしている。放置、ネグレクトのないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者一人一人の権利擁護のために個人の尊重に努めている。研修を開催し成年後見についても学ぶ。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に料金や施設運営方針を話し、契約書をかかわっている。料金改定時には説明し同意書をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 1年に1回の家族会で運営に関する意見をいただき家族が面会にみえた際には状態を報告したり、電話で連絡、報告をして密な関係を築いている | 入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録して情報を共有し運営に反映させている。家族からはコロナの影響で行事や面会の制限はあるが、その時々感染状況を確認し、感染対策をしながら玄関で短時間の面会や電話で要望や意見を聞いている。年1回の家族会では顧客満足度調査を実施し、結果や家族の意見に対する回答の報告書は本部から送られてくる。報告書と家族会のしおりを全世帯に送付している。また、改善が必要な場合は職員と話し合って改善に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に個人面談を行い運営に対する意見やサービスに対する意見を聴取し運営にとりいれている。行事計画をレク委員が作成し職員がレクを行っている。 | スタッフ会議は全員が出席できるように2回に分散して行い、スタッフの意見が反映され運営に活かされるよう努めている。随時、個人面談を実施している。年2回の人事考課では統括リーダーを含め三者で面談をして、職員の意見や要望、提案などを聞く機会とし、職場環境の改善に役立っている。外部研修や内部の職員研修を随時行い知識や技術のレベルアップに繋げている。また、レクや排泄、事故防止、虐待防止、感染防止などの委員会組織を介して職員自らの力量を活かし、向上心を持ってより良いケアに反させるように努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人の就業規則に基づき労働環境の整備を行っている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 2か月に1回外部研修、内部研修をおこなっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナの影響を受け、地域の同業者との交流会はなく、研修はすべてモニター配信となった。外部との交流は現在は少ない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 毎月、担当スタッフ(家族あての手紙を書く人)がモニタリングをおこなっている。そのモニタリングを参考に介護計画を作成している。普段の些細な会話の中からもその方の人となり聴取するようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の聞き取りや入居の契約時に家族より情報収集している。面会時にはサービスに対する意見をいただく。また受診の際には健康状態、ご様子をお伝えしご家族とともに支えていく | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の情報収集と入居後の状態観察をしサービス計画をたてる。必要な情報を共有して統一されたサービスを提供する | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 行事の際やレクの際には一緒になって楽しむようにしている。業務のみでなくゆっくりした時間をもち会話を増やすようにしている。そこで入居者様から生活歴や要望を伺い入居者様との密な関係を築くようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族訪問時に様子を伝えたり何かがあれば電話での連絡を密に取るようにしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の今までの生活歴を家族から聴取し、また本人の日常会話からの情報収集で過去のなじみの場やタイムリーな様子を家族にも伝えていくようにする | 入居時に生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までしてきた生活が再現できる支援に心がけている。コロナ禍ではあるが、緩和した時期には状況を確認しながら家族と自宅に戻ったり、近隣のお店を散歩したり季節のお花見に出掛けるなど感染対策を講じながら臨機応変の対応で外出支援に臨んでいる。年賀状や季節ごとの行事、昔の習わしなどを生活に取り入れたり、回想法を生かした紙芝居や「おしん」のドラマを観て会話を促したりしながら、その時々懐かしみなどの継続支援に努めている。また、入居者の得意分野を活かした食事作りや家事仕事、雑巾縫いや習字など今まで培った経験を日常に活かす支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士のトラブルはスタッフが仲裁にはいり、円滑な関係になるようにする。席替えをしたり、フロア移動をしたりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後のフォローとして入居時の様子を伝え(写真集を渡す等)ていく。また退去後の様子をうかがうようにしている(特養や老健に入られた方は特養や老健の相談員からうかがう) | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時には、モニタリングを行いながら希望や意向を把握するようにしている。利用者本位の暮らしができるようにしている | 日常の入居者とのさりげない会話や入居者の気持ちに寄り添って聴いたり、足浴で気持ちのゆったりした時などに思いや意向の把握に努めている。把握した思いや意向は申し送りノートに記録し、カンファレンス等で話し合い共有してケアに活かしている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人一人の生活環境、人間関係、親子関係を把握しその人らしい生活をしていただけるようにしている。毎月送る家族あてのお便りにはご様子や体重測定の結果をのせている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の暮らしの流れを入居者様に理解していただけるように予定表を作成し提示している入居者にわかるようなものを作成していく | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリング(スタッフが施行)や普段の会話から利用者様の要望等を伺い本人理解に努める、家族様との連絡を密に取り情報を得るようにする。スタッフには共通のサービス施行を提唱しより良いサービスをめざしていく | 入居者の日々の状態や生活状況の変化を記録に残し、職員間で情報を共有している。毎月担当職員が個別記録を基にモニタリングを行い、カンファレンスで情報交換を行っている。3か月毎に計画の見直しを行い、同時に入居者や家族の意向を確認し、医療関係者からの情報やアドバイスを反映させながら職員とケアマネジャーが中心となって現状に即した介護計画を立てている。状況に応じて随時の見直しもしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録として介護日誌や申し送りに記入をしている。排泄記録や個別バイタル表を職員間で連携し情報の共有をしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | サービスの変更を周知してだれもが同じサービスを提供していく。利用者個別のカンファレンスを開き問題事象の解決をする | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今まで通りの社会での生活の継続ができるように施設という媒体を通して社会とつながっていけるようにする町内会への参加や町内の行事への参加をしていく | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 通院は家族にお願いしている。往診は「A病院」が7名「B病院」が1名うけている。主治医は入居前の主治医を継続していただいている。通常はオンコール対応 | 入居前のかかりつけ医を継続し、受診は家族の協力を得ているが、困難時は通院支援を行っている。月2回ホームドクターの往診を受ける方やかかりつけ医の往診の方、在宅訪問医の往診の方などそれぞれに応じた受診対応をしている。皮膚科の往診やマッサージも個別に対応している。週1回、訪問看護師により健康管理を行い、かかりつけ医と連携を図りながら24時間体制で適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護は週に1回。訪問あり、個々の情報は事前にFaxで伝えてアドバイスを受けている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 救急搬送時には職員が同行し家族が病院にみえるまで待機し情報を伝える。利用者が入院された際には病院に情報を提供し家族との連携を密にし状態の変化をうかがっている。退院時にはカンファレンスを依頼し入院時の状態と今後に向けての対応をとるようにする | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りは基本おこなわないと入居時の説明で家族には話している。状態の変化が起きた場合は家族に連絡し対応を検討している | 入居時に本人や家族に看取りは基本的に行わない方針を説明し同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに入居者や家族の希望を確認し計画の見直しを行っている。医師の助言や家族の意向や入居者の状態に合わせて、病院や他の施設の紹介など最善の援助ができるよう努め可能な限り希望に添うよう支援している。 | 会社の方針として看取りを行わないため研修はしていないが、入居者の年齢や状況などを考慮し、緊急時に備え手順や心構えなどについて、職員の研修計画に組み込み、体制を整えられる事を望みたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時には家族に連絡をそくざに行っている。救急搬送時には職員が同行している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害マニュアルの作成と避難訓練を行い、職員間の連携と共有を行っている。役所への連絡情報を常に取り研修や訓練への参加を積極的に行っている | 災害マニュアルを作成し火災や地震の避難訓練を昼間と夜間想定で実施している。入居者は防災頭巾を被り身の安全を確保し災害に備える訓練も実施している。市からの防災メールには常に目を通して。備蓄は食料品や水の他に防災頭巾、懐中電灯や毛布等を準備しているが、リスト化して管理するまでには至っていない。ハザードマップにより水害による垂直避難が必要な地域となっている。また、地域との協力体制については今後の課題としている。 | 近年集中豪雨などによる水害が頻発しているため事業所の水害リスクを確認し、被害を最小限にするためハザードマップを掲示し職員に周知すると同時に河川の急な増水や水害時に対して垂直避難訓練も実施されることを望みたい。また、コロナ禍により地域との協力関係を築くのが難しい状況が続いているが、非常時に際して事業所としてできる事や地域に依頼したい事などについて話し合う機会を持ち、相互に安心、安全な暮らしが得られるよう協力関係を築き災害時に備えられることを望みたい。水や食料品の他に必要な備蓄品などを消防署や防災関係専門者と相談しを補充していくことを願いたい。また、明確なリストを作成し、保管場所など全職員に周知して安心安全な生活の確保ができることを願いたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーの確保に努め排泄の声掛けや着替え時のプライバシーの確保をしていく | 日々のケアの中で一人ひとりの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守る支援に努めている。管理者は排泄や入浴時の声かけにも注意し、呼び名については親しさと馴れ馴れしさの違いに気づき、その方の表情を見ながらプライドを損ねない対応をするよう職員に伝えている。職員には、接遇研修とそれに合わせプライバシーの確保や人格の尊重について学ぶ機会を提供している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事の選択をしていただいたり外出への参加希望をうかがったりしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | いままでされていたことを継続していただくために家事を手伝っていただいたり希望があれば外出をしていただいたりする。睡眠時間の希望で起床時間も個人により宇 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時の衣類の準備は入居者と職員が一緒におこなうようにしている。衣類は常にチェックし汚染のないものをきていただく | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 定期的に食事レクとしてちらし寿司・ハンバーグ・餃子・お弁当作り等をおこなっていただいている。その他合同昼食や施設前にて芋煮会・大根炊きをおこない外の昼食会、餅つき大会をおこなった。毎食事後の食器ふきをやっていただいたり、配膳や盛り付けをてつだっていただく | 今年は、食材を購入しての手作り調理と週3日湯せん調理を利用した食事に変更している。食事形態の変更はあるものの、調理中の香りが漂い食欲に繋がることを重視して食への関心が高まることの目的は継続している。入居者は保有能力やその日の気分に合わせて食器拭きや盛り付け、配膳などを職員と一緒にやっている。月1回「都道府県ランチ」と名付けて各県のご当地料理や味を楽しんでいる。庭先で芋煮会や餅つき大会、ユニット合同の昼食会やキッチンカーによる食事を楽しんでいる。室内では入居者希望のちらし寿司やハンバーグ等手作りの良さを残しながら多彩な内容で調理レクを楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養面では食材業者の立てる献立を基本とし提供している。水分摂取は1日最低2回おやつ時に接種していただき、希望があれば適宜水分補給をしていただく。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔のケアは毎食後におこない、また就寝時には入れ歯の洗浄を洗浄剤を使い行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレ時の声掛けや見守りをおこない、全員トイレでの排泄をされている | 個々の排泄パターンを把握し、適切な声掛けによりトイレでの排泄と自立支援に努めている。現在は全員トイレでの排泄が可能となっている。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にしながら睡眠も妨げないように、丁寧な声掛けや見守りの支援を行っている。夜間のみポータブルを利用し安心して排泄できるよう配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防とし、薬剤に頼ることなく、牛乳や繊維質の物の摂取をしていただく。個々の状態を把握し排泄管理簿を作成している。未排便時は薬剤を使用される方もある | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回以上の入浴をしていただき、個人のペースにあったゆったりとした入浴をおこなっている。入浴の曜日は基本としてあるが希望があればそれ以外の日にもゆよくをお声掛けする | 入浴は週2回以上を目安に、午前中を入浴時間としている。お湯は足湯をして清潔に配慮し、足ふきマットも一人ずつ交換している。入浴を拒む方には声掛けやタイミングを見計らったりシャワー浴にしたりして個々のペースに合った入浴支援を行っている。家族が差し入れた袖子でゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を利用して季節や香りで入浴を楽しんでいる。入浴後は肌の乾燥に配慮して乳液などを利用したりお化粧品をして身だしなみを整えている方もいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人のペースで入床をしてみえる。大晦日はテレビを見られる方に無理に就寝を強要せずゆったり過ごしていただいた | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬は職員が管理し誤薬のないよう、常に注意をしている。服薬の内容については薬じょうを管理している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎食後の食器ふきと洗濯物干しと洗濯たみをお願いしお一人お一人の役割となっている。塗り絵や歌をうたい体操をしていただき日々の生活の気分転換とされている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々の散歩を通して四季を感じられるよう支援をしている。また、プランターの花の水やりや庭の草取り、洗濯物干しなど外気に触れる機会を大切に支援をしている。 | コロナ禍で外出規制があるが、コロナの感染状況を確認し感染対策を講じながら、日々の散歩や草取り、庭で食事会、お茶会など外気に触れる機会を大切に支援に努めている。また、喫茶店やお店のテラス席での食事、ドライブを兼ねて桜や花しょうぶ、紫陽花など季節の花見や温室の花の見学、野菜の収穫体験など感染状況を確認しながら支援に努め、入居者の気力や体力の低下に繋がらないような支援に心掛けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の保持はトラブルになるということもあり、入居時にお断りしている。外出レクでえびせん工場に出かけたときにはひとり100円をしようしていただき買い物レクを楽しんでいた | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話については基本ご遠慮していただくよう家族に依頼しているが年賀状を全員に書いていただき家族あて送付した。個別でご家族から絵手紙をいただく方もある | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日中はほとんど共有スペースで過ごされているので室温。換気等に気を付けている。コロナも流行っているので時間での換気をおこなっている。壁の絵を共同で製作したり季節の飾りつけをしている、居室のネーム板やトイレの位置はわかりやすくしている。 | 窓から自然な採光を取り入れ、明るく風通しがよく、食堂と居間はワンフロアの共用空間となっている。コロナ感染予防のため換気に配慮したり大型の空気清浄機を設置して温度や湿度、清掃に留意したり、入居者が手すりの消毒するなど協力し合いながら清潔な環境を維持している。壁面には職員と入居者で作成した季節の貼り絵や手作り作品が飾られている。入居者はゆったりとしたソファやイスに腰掛けて新聞を読んだりテレビを観たりしてのんびり過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースの席は決まっているが時々席替えをしたりしている。個々の人間関係を把握するようにしている、 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にはなじみのものを置いていただくようにしているがあまり広いわけではないので入居時に最小限度とは依頼している。空調で環境整備に努めている。 | 居室には介護用ベットとオープンクローゼットが備え付けられ洋服を掛けて収納できるようになっている。入居時は馴染みの家具や仏壇、テレビ、椅子などを持ち込み、自分らしい居住空間としている。また必要な小物や写真、手作りの作品を飾って、自宅にいた時と同様に習慣としていた読書や書き物をしたり、仏壇に手を合わせたり、職員と一緒に掃除をするなどして居心地よく過ごせる工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個人の人格を尊重できること、わかることを継続できるようにしている。歩行しやすいよう手すりの確保や車いすでのすれ違いのできる幅の広い廊下やトイレを確保している | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2392800104 | | |
| 法人名 | 琴葉株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム琴葉向陽 2F | | |
| 所在地 | 愛知県碧南市向陽町1-54 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年2月7日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2392800104-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし入居者1人1人の生活歴を踏まえながら「楽しい」と思っていただけ場所をめざす。自由な行動の抑制をしないこと、社会との隔絶の無い日々、季節感のある日々をすごしていただく。施設に入ったから何もできないのではなく、施設に入ったから席が増えたといわれるようにしていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設4年を迎えた事業所の近隣には、小・中・高校、コンビニや神社、公園などがあり、敷地内や隣接する保育園の子どもの笑顔や笑い声に癒される環境にある。2階建の事業所は開放的で明るく、最新の設備が整えられ住心地よく、安心して暮らせる場となっている。会社の理念、『「スローライフ」ゆったりとした時間、空間の提供』を基に、グループホームの想いとして「あなたに会えてよかった」を掲げ、入居者と向き合い思いをくみ取りゆったりとしたケアに心がけている。今年もコロナ禍により、地域の行事や清掃活動などの参加は踏み止まっている。昨年度の「国際ランチ」から、今年は「都道府県ランチ」と称して月1回、各県のご当地料理や味を楽しんでいる。庭先で芋煮会や餅つき大会、ユニット合同の昼食会やキッチンカーを利用して野外で焼きそばやたこ焼き、ピザなど楽しめるようにしている。室内では入居者希望のちらし寿司やハンバーグなど手作りの良さを残しながら多彩な内容で調理レクを楽しんでいる。ドライブを兼ねて桜や花しょうぶ、紫陽花など季節の花見や温室の花々の鑑賞、野菜の収穫体験など地域情報や資源を活用し感染状況を確認しながら外出支援に努め、入居者の楽しみや喜びに配慮した支援にも心掛けている。年賀状や習字、雑巾縫い、家事仕事など今までできなかったことを大事にし、今の生活の中でできるような支援にも努めている。日差しの降り注ぐ明るいリビングルームのゆったりとしたソファやイスに腰掛て新聞を読んだりテレビを観たり談笑などをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家族的な生活環境をめざし、入居者一人一人によりそうようにしている。近隣に住まいするスタッフが增えたため入居者様との共通の話題でコミュニケーションが取れるようになった | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 同一敷地内にある保育所の乳児が飼育している亀や金魚を見に來たり、窓越しに手を振りあったりして交流している。コロナ禍で外出は控えるようにしていたが、感染対策をとって、菖蒲やアジサイの花見へもでかけた。ボランティアの受け入れは中止してきた | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍で面会は禁止し外部との接触は極端にへらしていた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で外部の方を呼ぶことがためらわれたが書面での開催は1回のみだった。管理者みずからがコロナになった際は施設内でスタッフのみで開催した | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2か月に1度の運営推進会議に参加いただき意見をもらっている。運営上の疑問や不明点を問い合わせたり密な関係を作っている。市町村の主催する研修や後援会へ参加し顔の見える関係を築いている | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の事例はないが行動抑制にもなる施錠を玄関や居室に行わないように努力している | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 利用者に対しての身体虐待は当然行われていないが「言葉」による虐待のないように努めている。「待って！」「～しないで」という禁止用語を使わないようにしている。放置、ネグレクトのないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者一人一人の権利擁護のために個人の尊重に努めている。研修を開催し成年後見についても学ぶ。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に料金や施設運営方針を話し、契約書をかかわしている。料金改定時には説明し同意書をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 1年に1回の家族会で運営に関する意見をいただき家族が面会にみえた際には状態を報告したり、電話で連絡、報告をして密な関係を築いている | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に個人面談を行い運営に対する意見やサービスに対する意見を聴取し運営にとりいれている。行事計画をレク委員が作成し職員がレクを行っている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人の就業規則に基づき労働環境の整備を行っている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 2か月に1回外部研修、内部研修をおこなっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナの影響を受け、地域の同業者との交流会はなく、研修はすべてモニター配信となった。外部との交流は現在は少ない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 毎月、担当スタッフ(家族あての手紙を書く人)がモニタリングをおこなっている。そのモニタリングを参考に介護計画を作成している。普段の些細な会話の中からもその方の人となり聴取するようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の聞き取りや入居の契約時に家族より情報収集している。面会時にはサービスに対する意見をいただく。また受診の際には健康状態、ご様子をお伝えしご家族とともに支えていく | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の情報収集と入居後の状態観察をしサービス計画をたてる。必要な情報を共有して統一されたサービスを提供する | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 行事の際やレクの際には一緒になって楽しむようにしている。業務のみでなくゆっくりした時間をもち会話を増やすようにしている。そこで入居者様から生活歴や要望を伺い入居者様との密な関係を築くようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族訪問時に様子を伝えたり何かがあれば電話での連絡を密に取るようにしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の今までの生活歴を家族から聴取し、また本人の日常会話からの情報収集で過去のなじみの場やタイムリーな様子を家族にも伝えていくようにする | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士のトラブルはスタッフが仲裁にはいり、円滑な関係になるようにする。席替えをしたり、フロア移動をしたりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後のフォローとして入居時の様子を伝え(写真集を渡す等)ていく。また退去後の様子をうかがうようにしている(特養や老健に入られた方は特養や老健の相談員からうかがう) | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時には、モニタリングを行いながら希望や意向を把握するようにしている。利用者本位の暮らしができるようにしている | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人一人の生活環境、人間関係、親子関係を把握しその人らしい生活をしていただけるようにしている。毎月送る家族あてのお便りにはご様子や体重測定の結果をのせている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の暮らしの流れを入居者様に理解していただけるように予定表を作成し提示している入居者にわかるようなものを作成していく | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリング(スタッフが施行)や普段の会話から利用者様の要望等を伺い本人理解に努める、家族様との連絡を密に取り情報を得るようにする。スタッフには共通のサービス施行を提唱しより良いサービスをめざしていく | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録として介護日誌や申し送りに記入をしている。排泄記録や個別バイタル表を職員間で連携し情報の共有をしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | サービスの変更を周知してだれもが同じサービスを提供していく。利用者個別のカンファレンスを開き問題事象の解決をする | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今まで通りの社会での生活の継続ができるように施設という媒体を通して社会とつながっていけるようにする町内会への参加や町内の行事への参加をしていく | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 通院は家族にお願いしている。往診は「A病院」が7名「B病院」が1名うけている。主治医は入居前の主治医を継続していただいている。通常はオンコール対応 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護は週に1回。訪問あり、個々の情報は事前にFaxで伝えてアドバイスを受けている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 救急搬送時には職員が同行し家族が病院にみえるまで待機し情報を伝える。利用者が入院された際には病院に情報を提供し家族との連携を密にし状態の変化をうかがっている。退院時にはカンファレンスを依頼し入院時の状態と今後に向けての対応をとるようにする | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りは基本おこなわないと入居時の説明で家族には話している。状態の変化が起きた場合は家族に連絡し対応を検討している | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時には家族に連絡をそくざに行っている。救急搬送時には職員が同行している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害マニュアルの作成と避難訓練を行い、職員間の連携と共有を行っている。役所への連絡情報を常に取り研修や訓練への参加を積極的に行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーの確保に努め排泄の声掛けや着替え時のプライバシーの確保をしていく | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事の選択をしていただいたり外出への参加希望をうかがったりしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | いままでされていたことを継続していただくために家事を手伝っていただいたり希望があれば外出をしていただいたりする。睡眠時間の希望で起床時間も個人により宇 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時の衣類の準備は入居者と職員が一緒におこなうようにしている。衣類は常にチェックし汚染のないものをきていただく | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 定期的に食事レクとしてちらし寿司・ハンバーグ・餃子・お弁当作り等をおこなっていただいている。その他合同昼食や施設前にて芋煮会・大根炊きをおこない外での昼食会、餅つき大会をおこなった。毎食事後の食器ふきをやっていただいたり、配膳や盛り付けをてつだっていただく | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養面では食材業者の立てる献立を基本とし提供している。水分摂取は1日最低2回おやつ時に接種していただき、希望があれば適宜水分補給をしていただく。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔のケアは毎食後におこない、また就寝時には入れ歯の洗浄を洗浄剤を使い行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレ時の声掛けや見守りをおこない、全員トイレでの排泄をされている | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防とし、薬剤に頼ることなく、牛乳や繊維質の物の摂取をしていただく。個々の状態を把握し排泄管理簿を作成している。未排便時は薬剤を使用される方もある | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回以上の入浴をしていただき、個人のペースにあったゆったりとした入浴をおこなっている。入浴の曜日は基本としてあるが希望があればそれ以外の日にもゆったりをお声掛けする | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人のペースで入床をしてみえる。大晦日はテレビを見られる方に無理に就寝を強要せずゆったり過ごしていただいた | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬は職員が管理し誤薬のないよう、常に注意をしている。服薬の内容については薬じょうを管理している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎食後の食器ふきと洗濯物干しと洗濯たみをお願いしお一人お一人の役割となっている。塗り絵や歌をうたい体操をしていただき日々の生活の気分転換とされている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々の散歩を通して四季を感じられるよう支援をしている。また、プランターの花の水やりや庭の草取り、洗濯物干しなど外気に触れる機会を大切に支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の保持はトラブルになるということもあり、入居時にお断りしている。外出レクでえびせん工場に出かけたときにはひとり100円をしようしていただき買い物レクを楽しんでいた | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話については基本ご遠慮していただくよう家族に依頼しているが年賀状を全員に書いていただき家族あて送付した。個別でご家族から絵手紙をいただく方もある | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日中はほとんど共有スペースで過ごされているので室温。換気等に気を付けている。コロナも流行っているので時間での換気をおこなっている。壁の絵を共同で製作したり季節の飾りつけをしている、居室のネーム板やトイレの位置はわかりやすくしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースの席は決まっているが時々席替えをしたりしている。個々の人間関係を把握するようにしている、 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にはなじみのものを置いていただくようにしているがあまり広いわけではないので入居時に最小限度とは依頼している。空調で環境整備に努めている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個人の人格を尊重できること、わかることを継続できるようにしている。歩行しやすいよう手すりの確保や車いすでのすれ違いのできる幅の広い廊下やトイレを確保している | | |